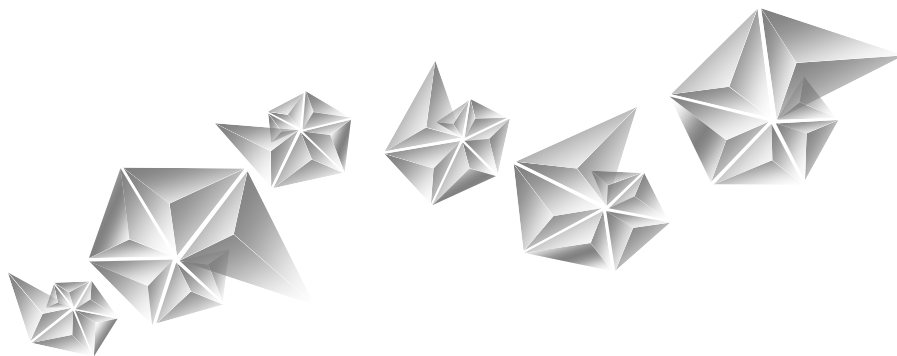


平成29年度埼玉県学力学習状況調査報告書

〔平成29年4月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～



平成 29 年 12 月
埼玉県教育委員会



はじめに

本調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という調査の視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」「変容させることができたか」という視点を加えた、全国唯一の調査です。小学校4年生から中学校3年生まで、児童生徒一人一人の学力を継続して把握することで、子供たちが現在の實力を知り、「どれだけ伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。

本報告書では、県全体の「学力の伸び」の状況などを掲載するとともに、子供たちの学力をさらに伸ばし、指導上の課題を解決するための「分析・活用の方法」を示しております。併せて、「学力を伸ばした学校の取組」や「学習指導のポイント」なども記載しております。

また、本調査における昨年度の分析結果から主体的・対話的で深い学び（特に問題解決的な学び）が、子供たちの非認知能力（自己効力感等）の向上や、学習方略（計画的に学ぶ態度や苦手でも頑張る態度等）の改善を通じて、学力を向上させている可能性が示されました。

そうした分析結果に基づき、児童生徒の「学力の伸び」と主体的・対話的で深い学びの実施状況、「学習方略」や「非認知能力」の変化に特化した追加帳票を作成しました。本報告書には、その活用方法についても記載しております。

これらのデータや記載内容は、調査の対象学年や該当教科はもちろんのこと、全ての学年、教科の指導や校内研修の資料など多面的に活用できるものです。

学校等におかれましては、調査結果を独自に分析し、仮説を立てて取り組み、検証を行うといったサイクルを確立するとともに、児童生徒の学力を伸ばした教員の効果的な取組や工夫を聞き取り、学校全体で実践するなど、一人一人の児童生徒の学力を伸ばすための指導改善を進めていただきますようお願いいたします。

平成29年12月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長
大 根 田 頼 尚

目 次

はじめに

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1 調査の概要	8
2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	10
3 個人結果票について	14
4 調査に関するQ&A	17

第2章 教科に関する調査結果の概要

「学力の伸び」の状況	24
------------	----

第3章 調査結果の活用

1 調査結果の分析・活用について	30
2 「平成29年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業」の分析結果に基づく追加帳票について	39

第4章 特徴的な学校の取組の紹介

1 蕨市立西小学校	54
2 富士見市立針ヶ谷小学校	56
3 深谷市立深谷西小学校	58
4 春日部市立牛島小学校	60
5 朝霞市立朝霞第四中学校	62
6 滑川町立滑川中学校	64
7 皆野市立皆野中学校	66
8 蓮田市立蓮田南中学校	68

第5章 学習指導のポイント

国語	74
算数・数学	88
英語	104

<参考> 質問紙調査から見られる相関関係

1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関	110
2 「学級の雰囲気」と「学習の様子」に関する相関	112
3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関	114
4 「家庭での生活習慣」に関する相関	116
5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関	118



平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査

背景 1
学力向上の必要性

調査の目的
本県の児童生徒が学力や学習に関する指導の工夫改善を図り児童生徒一人一人の

指導改善の方向
第2章 調査結果の概要 (P23~27)
第5章 学習指導のポイント (P73~107)

各学校における
・校内研修
・学力向上の取組

調査の概要
○調査日 平成29年4月1日
○調査対象 小学校第4学年～第5学年、
中学校第1学年～第3学年、
中学校第2・3学年
市町村教育委員会、

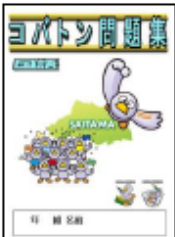
復習シートの活用
○定着を図り、より伸ばすために
○繰り返し学習による課題の克服
県ホームページへ

学力
知識・技能
思考力・判断力
表現力

調査結果の活用
県教育委員会、各市町村教育委員会、各学校

調査結果を活用し「さらなる学力向上」を図る
第4章 特徴的な学校の取組

○全国学力・学習状況調査の成果 (コバトン問題集の活用)



○「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業

一人一人の学力を伸ばす教育

個人結果票

児童生徒一人一人に対して

- ・教科に関する調査の結果
- ・質問紙調査の結果
- ・学習に関するアドバイス



学習状況調査グランドデザイン



目的

5事項等を把握することで、教育施策や
人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

背景2

これまでの調査の課題

実施

3日（木）
中学校第3学年
第6学年：国語、算数、質問紙
国語、数学、質問紙
第7学年：国語、数学、英語、質問紙
、各小・中学校：質問紙

全ての
学年・教科へ

活用の方向

第3章 調査結果の活用
(P29~52)

〈参考〉質問紙調査の分析
(P109~119)

新たに見えてくる児童生徒の姿

- 学力と学習方略の関係
- 学力と非認知能力の関係など

詳細な分析

市町村、各小・中学校

主体的に学習
に取り組む
意欲・態度

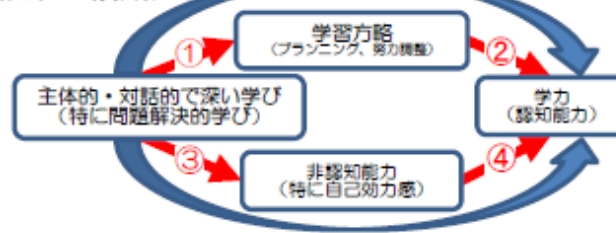
各家庭へ

学級懇談会、学校便りなど

「学力を伸ばす」「課題を克服」
取組の紹介 (P53~69)

学力を確実に
伸ばす教育の推進

○埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業
(追加帳票の活用)



コバトンのびのびシート

- 児童生徒を多面的に把握
- 様々な調査結果の一元化
- 教員の指導方法等の共有
- 次年度への引き継ぎ

第1章

調査の概要

本調査の目的や調査の設計、県としての「学力」や「学力の伸び」の考え方についてのイメージを示しました。

また、学校へ送付した個人結果票のイメージや活用方法、調査に関するQ & Aも掲載しています。



1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査の対象

○県内の全公立小・中学校（さいたま市を除く）の児童生徒

・小学校 708校（149, 230人）

・中学校 356校（143, 687人）

○県内の全公立小・中学校及び市町村教育委員会（さいたま市を除く）

対象学年	教科	調査実施日
小学校第4学年	国語 算数	平成29年4月13日（木）
小学校第5学年	国語 算数	
小学校第6学年	国語 算数	
中学校第1学年	国語 数学	
中学校第2学年	国語 数学 英語	
中学校第3学年	国語 数学 英語	

(3) 調査の内容

各教科について、下記の調査範囲に基づいて作成したペーパーテストにより実施する。また、学習に対する意識や生活の様子に関する質問紙調査を併せて実施する。

ア 教科に関する調査

(ア) 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

(イ) 対象教科

小学校第4学年～小学校第6学年 … 2教科（国語、算数）

中学校第1学年 … 2教科（国語、数学）

中学校第2、3学年 … 3教科（国語、数学、英語）

(ウ) 出題範囲

「小（中）学校学習指導要領（平成20年告示）」に示された内容で、各学年とも前学年までの学習内容を範囲とする。

(エ) 調査事項

基礎的・基本的な知識・技能をみる問題（知識に関する問題）及び基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をみる問題（活用に関する問題）

イ 児童生徒に対する質問紙調査

(ア) 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

(イ) 調査事項

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

ウ 学校及び市町村教育委員会に対する質問紙調査

(ア) 対象

埼玉県内の公立小・中学校

埼玉県内の市町村教育委員会

(イ) 調査事項

学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項

(4) 調査に要する時間

小学校第4学年～小学校第6学年

- ・教科に関する調査の調査時間は1教科40分間とする。
- ・質問紙調査の調査時間は30分程度とする。

中学校第1学年～中学校第3学年

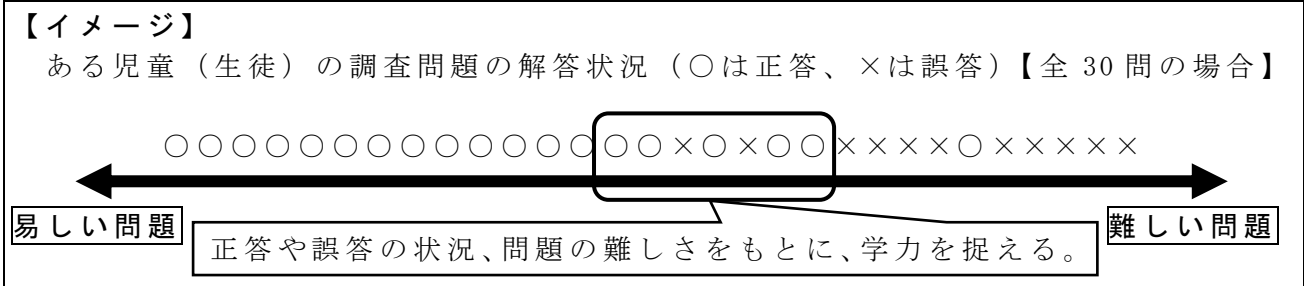
- ・教科に関する調査の調査時間は1教科45分間とする。
- ・質問紙調査の調査時間は30分程度とする。



2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計

(1) 本調査における学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉える。



ア 学力の捉えについて

問題の難しさは児童生徒により異なるので、上の図のように難しい問題に正答し、易しい問題に誤答することもある。そこで、正答や誤答のパターンに基づき、学力をある程度の幅を持って捉えていく。

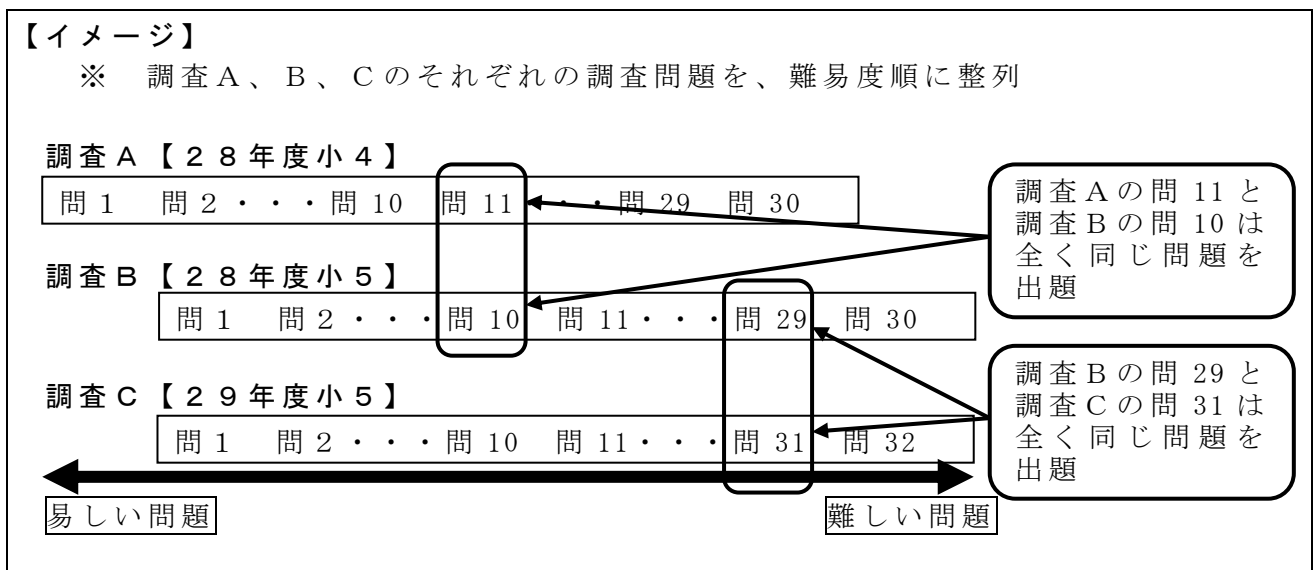
イ 「問題の難しさ」で学力を捉える理由

全国学力・学習状況調査など、正答数（正答率）を学力の指標として使う方式は「いくつの問題に正答したか」で学力を捉えている。この場合、単一の調査の中で学力を比べることはできるが、小学校4年生と5年生など出題内容が異なる調査の結果から学力を比較することは難しくなる。

「問題の難しさ」をもとに学力を捉える方式は、視力検査などに例えられることがある。視力を、どれくらい小さなマークが見えるかで測るように、学力を、どれくらい難しい問題に正答できるかで捉えていく。その際、次の(2)に述べる工夫をし、異なる調査問題の難しさを比較可能にした上で学力を捉える。

(2) 年度や学年で、異なる内容の調査結果を比較するための工夫

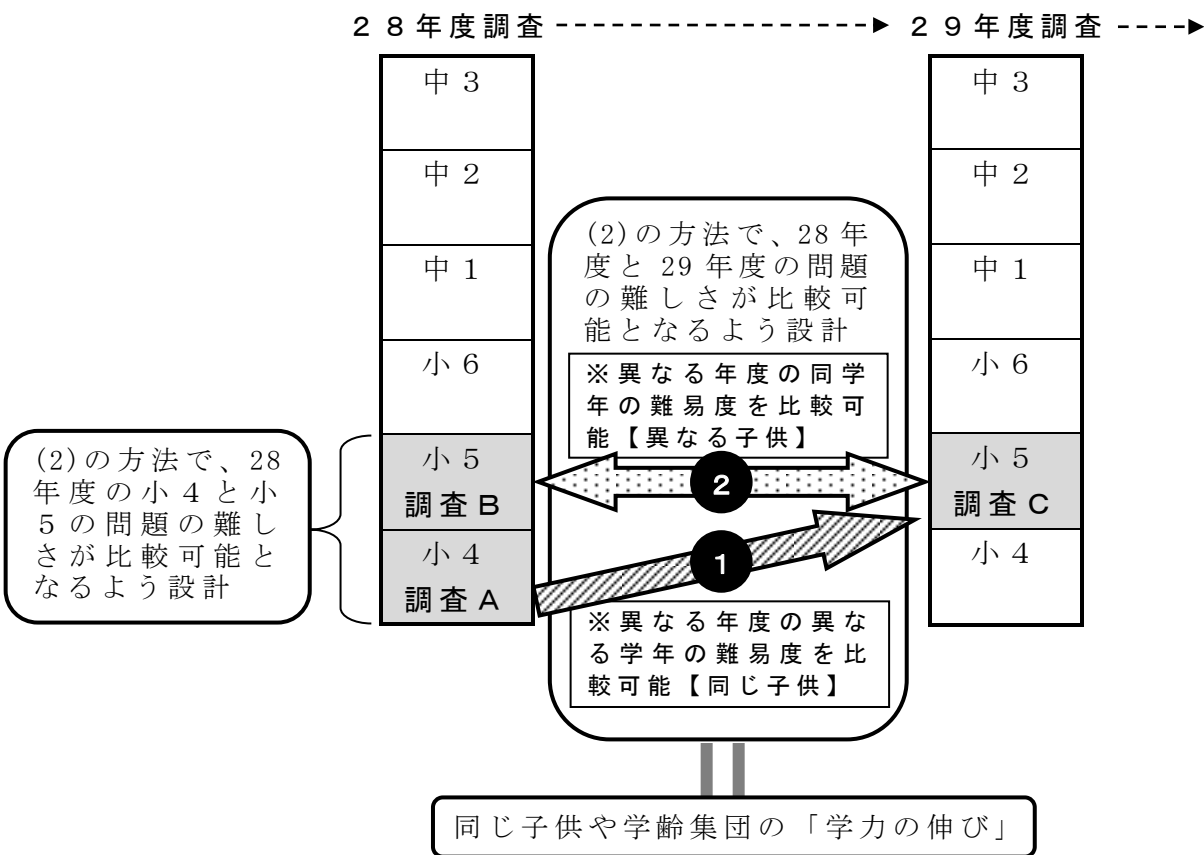
それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への正答や誤答の状況を手掛かりとして、すべての問題について「難しさ」を比較する。



(3) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

(1)、(2)に基づき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしている。

調査の設計【イメージ】



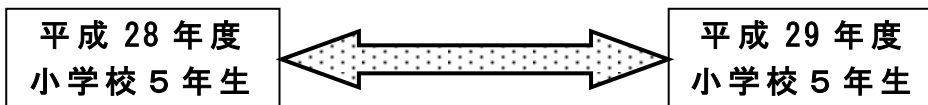
1 【同じ子供たちの「学力の伸び」】

- ・ 学年が上がった子供たちの結果を比較可能
(例) 平成28年度の小4と平成29年度の小5



2 【異なる年度の同じ学年の子供たちの結果】

- (例) 平成28年度の小5と平成29年度の小5



(4) 本調査における「学力の伸び」の捉え方

ア 調査問題の難易度について

本調査では、学力を「どのくらい難しい問題に正答できるか」で捉えるために、全ての問題に難易度を設定しています。

< 難易度の例 >

○ 例 1 計算問題 (割り算)

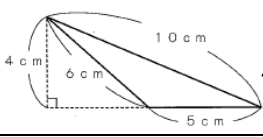
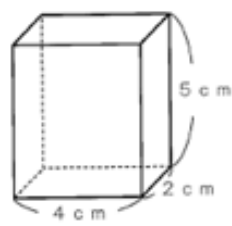
問題の難易度	問題例
6	$0.7 \div \frac{2}{3}$
4	$5.6 \div 1.4$
3	$52 \div 4$

割り算に分数も入るため、難易度がさらに上がって、「6」となる。

割り算に小数が入るため、難易度が「4」に上がる

整数同士の割り算である。本調査では難易度を「3」と設定している。

○ 例 2 求積の問題

問題の難易度	問題例
6	次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。 
4	次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ 2 cm、4 cm、5 cm の直方体の体積を求めましょう。 

与えられた数値から面積を求める問題である。必要な数値を取捨選択するため、難易度が「6」に上がる。

与えられた数値全てを使って体積を求める問題である。本調査では、難易度を「4」と設定している。

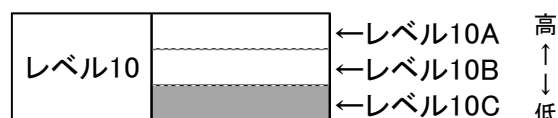
イ 「学力のレベル」について

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断しています。

学力は、「学力のレベル」で表されます。学力のレベルはレベル1からレベル12までありますが、各学年の測定は以下の表のように7レベルの間で行っています。

学年	学力のレベル	学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～7	中学校1年生	レベル4～10
小学校5年生	レベル2～8	中学校2年生	レベル5～11
小学校6年生	レベル3～9	中学校3年生	レベル6～12

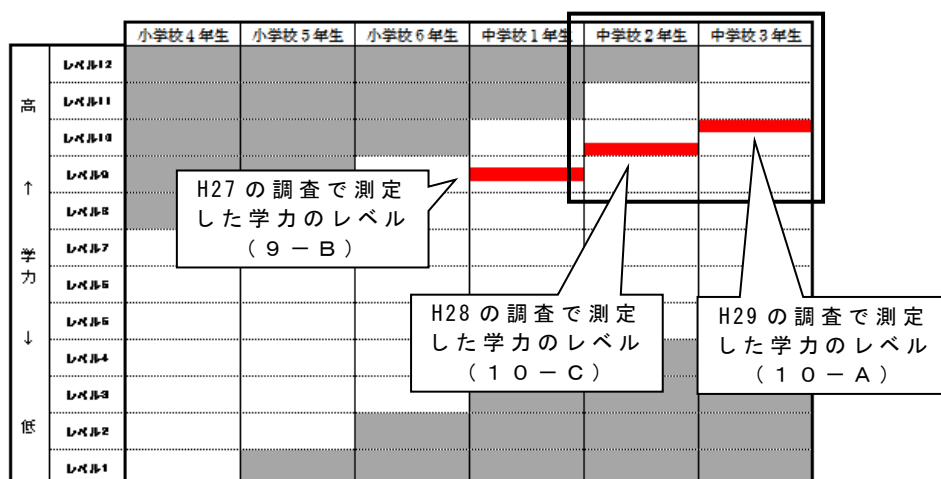
また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層（高い順にA→B→C）に分かれており、同じレベルの中でもスモールステップで「学力の伸び」が分かるようになっていきます。



ウ 「学力の伸び」について

本調査では、年度間の学力のレベルの差を「学力の伸び」と捉えています。下図は、個人結果票の一部を拡大したものです。児童生徒には、学力のレベルがバーの位置で示されます。前年度のバーの位置と、今年度のバーの位置を比べると「学力の伸び」が分かります。

＜学力のレベルの示し方の例（個人結果票の一部）＞



＜個人結果票・□部分を拡大したもの＞



3 個人結果票について

P 4

質問紙調査の結果～指導者の態度の達成目標

結果のある部分を身に付けることで...

達成目標ごとの達成状況

ご感想へのコメント

P 1

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査 個人結果票【中学校3年生】

埼玉県学力・学習状況調査結果

教科に関する調査結果(2～3ページ)の目方

教科ごとの学力レベルごとの正答率の傾向

学習に関するアドバイス

- (1) 学力のレベルなどの見方について
- (2) それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例
- (3) 今までの学力の変化について

- (6) 質問紙調査の結果
- (7) 自由記述欄について
- (4) 学習に関するアドバイスについて
- (5) 教科の領域等別正答率など

P 2

国語

数学

英語

教科に関する調査結果

国語の調査結果

数学の調査結果

英語の調査結果

教科ごとの学力レベルごとの正答率の傾向

学習に関するアドバイス

※本結果票は、【中学校2・3年生用】です。
 【小学校4～6年生用】【中学校1年生用】
 は国語と算数・数学の2教科になります。

(1) 学力のレベルなどの見方について【個人結果票P 1参照】

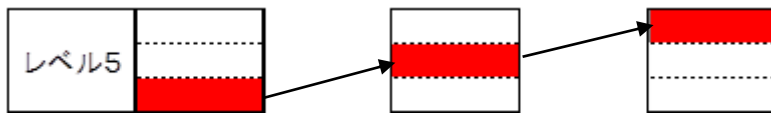
学力のレベルはバーの位置で表しています。学力のレベルは、1～12段階ありますが、測定は各学年7レベルの間で行います。各学年の測定範囲は、各学年を縦に見た白い部分です。

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11
中学校3年生	レベル6～レベル12

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで学力の伸びがわかります。

例えば、同じレベル5の中でも、学力のレベルが高くなるとバーの位置が変わります。



※前学年でのバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化が分かります。

(2) それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例【個人結果票P 1参照】

調査は4月実施のため、各教科とも調査問題の出題範囲は前学年の内容となります。

レベルごとに分けられた問題の例は、実際の調査問題のうち、当該レベルの児童生徒が70%程度の確率で正答できる問題を示しています。

全体の調査結果からの例ですので、すべての児童生徒に当てはまるものではありませんが、県全体における学年の傾向として参考にしてください。

(3) **今までの学力の変化** について【個人結果票P 2, 3 参照】

「児童生徒の学力の変化」について、次のような形でコメントを記載しています。

あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。

コメントは、次の①～⑧のパターンがあります。

	児童生徒の学力の変化の状況	表示されるコメント
①	・学力が伸びて、レベルが上がった場合	あなたの学力は、「レベル〇」まで伸びました。
②	・同じレベル内で、伸びがあった場合	あなたの学力は、「レベル〇」の中で伸びがありました。
③	・学力の位置が前年度と同じだった場合 ・学力の位置が前年度より下がった場合 (レベルが1つ下がった場合を含む)	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はH29の児童生徒の学力レベルの数字)
④	・2つ以上レベルが下がった場合 ・正答数が0問であった場合 (学力のレベルの は表示されません)	学校の先生等と、学習などについて相談をしてみましょう。
⑤	・全ての調査問題に正答した場合	あなたの学力は、レベル〇以上になりました。 (〇は当該学年での最高レベルの数字)
⑥	・本年度の調査は実施したが、昨年度の調査を未実施の場合	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はH29の児童生徒の学力レベルの数字)
⑦	・本年度の調査を一部教科未実施の場合 (昨年度実施・未実施の場合とも)	未実施教科：本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。 (実施教科については①～⑥の状況に応じたコメントが表示されます。)
⑧	・本年度の調査を全教科未実施の場合 (個人結果票の返却はありません)	—

※個人結果票を返却する際にお願いしたいこと

【①②⑤の場合】(「学力の伸び」が見られた場合)

- ・ 本調査のねらいを実現できるよう、学力の伸びた教科について、**児童生徒一人一人の1年間のがんばりを認めたり、ほめたりする**ことで、児童生徒が自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるような言葉かけをしてください。
- ・ その際、「教科の領域等別正答率」や「県全体の正答率分布」なども参考にしながら、よさを具体的にほめるよう心がけてください。

【③④の場合】(学力の位置が前年度と同じ、または前年度より下がった場合)

- ・ 伸びている他の教科や、「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、よい部分をほめることを中心に言葉かけをしてください。
- ・ 学力が前年度と同じか下がっている児童生徒については、「授業への取組」「学習習慣」「生活習慣」などにつまずきや悩みがある可能性があります。
- ・ 個々の学習方法や生活上の悩みの聞き取り、**教育相談などを行うことで**、児童生徒の状況を把握し、助言し、その後の取組等を見届けるなど十分な支援をしてください。

【⑥の場合】(昨年度未実施の場合)

- ・ 「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、よい部分をほめることを中心に言葉かけをしてください。

【⑦の場合】(今年度一部未実施の場合) 実施した教科については、①～⑥に準じてください。

【⑧の場合】(今年度全教科未実施の場合)

- ・ 調査結果票はありませんが、日常の授業等ががんばっているところ等、ほめることを中心に言葉かけをしてください。

(4) **学習に関するアドバイス** について【個人結果票P 2, 3参照】

アドバイスは3段構成になっています。

例)「同じレベル内で、伸びがあった場合」のコメント

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を使い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似な図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を関連させて考えを深めましょう。

また、関数の学習は、式から交点を求めたり、式をグラフに表したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では放物線の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、ていねいに取り組みましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、県ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

学力調査の結果
・学習習慣 等

今後の学習への
アドバイス
(領域等別)

復習シートの活用

- ・ 上段では、児童生徒の学力の状況について説明し、「学力の伸び」を認めるコメント、授業や学習習慣などへのアドバイスを記載しています。
- ・ 中段では、領域等別に、今後どのような学習がさらに効果的であるかを記載しています。
- ・ 下段では、復習シートの活用を促しています。

「**学力レベルが前年度と同じだった場合**」「**学力レベルが前年度より下がった場合**」については、「必要に応じて、学校の先生やご家族の方と相談してみるのもよいでしょう。」などのコメントを記載しています。児童生徒の現状や要望に応じて**面談などを行い**、つまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、子供たちが自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう働きかけましょう。

(5) **教科の領域等別正答率** 及び **県全体の正答率分布** について

【個人結果票P 2, 3参照】

- ・ 「教科の領域等別正答率」には、領域ごとの正答数、設問数、正答率を県全体の平均も併せて記載しています。レーダーチャートの実線(—)は児童生徒の正答率、網掛け(■)になっている部分は、県全体の平均正答率となっています。学力の変化の状況以外に、児童生徒のよさを認める際の参考としてください。
- ・ 「県全体の正答率分布」は、人数を横軸とした県全体の分布を棒グラフで示しています。当該の児童生徒が含まれる集団を表す棒グラフの色を ■ として、県全体におけるおおよその位置が分かるようになっています。ただし、**本調査の目的は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や変化を把握してよさを伸ばしていくことにあります**ので、県全体の中での位置に重きを置いた働きかけや指導は控え、あくまで**参考として御活用ください**。

(6) 「質問紙調査の結果～規律ある態度の達成目標～」について【個人結果票P 4参照】

- ・ 規律ある態度の達成目標について、児童生徒の回答状況を示しています。

(7) 自由記述欄の活用について(例)【個人結果票P 4参照】

- ・ 夏季休業中の学習計画や取組などについて児童生徒が記入し、夏季休業明けに提出させる等、担任が確認して返却する。
- ・ 保護者にごんばりを認めたり、励ましたりするコメントを記入してもらう。
- ・ 返却に十分な時間が取れない場合に、担任があらかじめごんばりなどを認めるコメントを記載しておく。

4 調査に関するQ & A

(1) 調査について

【Q1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の児童生徒の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくいという課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定する、つまり、「どれくらい難しい問題に正答できたか」という視点を加え、小学校4年生から、中学3年生まで、児童生徒の学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっていきます。

(2) 個人結果票の見方について

【Q2】

同じ正答率の場合、同じ学力のレベルになるのですか。

【A2】

同じ学力のレベルにならない場合もあります。

県学力・学習状況調査の問題は、正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかでレベルが決まります。

例えば、AとBの児童生徒が同じ10問を解答した場合に、Aが一番簡単な問題を1問間違えて、残りは全て正答し、Bが一番難しい問題を1問間違えたとします。この場合、正答率で考えると、AとBの学力はいずれも90%で同じということになりますが、本調査においては、より難しい問題に正答できているAの学力のレベルの方が高くなります。

【Q3】

学力のレベル7で考えた場合、小学校4年生の学力レベル7の児童と、中学校1年生の学力レベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A3】

県学力・学習状況調査の学力のレベルについては、学力のレベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力のレベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかという、解けない可能性が高いです。これは、学習指導要領により学習内容が定められているため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ学習していないためです。

【Q4】

学年の中で、レベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベル数値は低くても「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A4】

本調査では、どの学力のレベルの中でも、数値が伸びているのであれば、子供一人一人に伸びを実感させ、自信を持たせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して1レベル難易度の高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q5】

中学校2年生での学力のレベルが5（中学校2年生の中では一番低い学力レベル）の場合、学力のレベル5より下の学力レベルにはつけられない状態になっています。この場合の学力レベルは、どのような基準でつけているのですか。

【A5】

中学2年生の調査において学力を測定できる問題の範囲はレベル5からレベル11と設定しています。レベル5の問題に1問でも正答していれば、レベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体も表示されないこととしています。

【Q6】

個人結果票は、絶対評価、相対評価どちらで示されているのですか。

【A6】

「今までの学力の変化」については、絶対的な位置を示しています。

「県全体の正答率分布」については、県全体の中でどのくらいの位置にいるのかが分かるように、参考として記載しています。こちらは、児童生徒の県全体における相対的な位置を示しています。

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。

学年	国語	今までの学力のレベル				
		レベル10	レベル9	レベル8	レベル7	レベル6
1	国語					
2	国語					
3	国語					
4	国語					
5	国語					
6	国語					
7	国語					
8	国語					
9	国語					
10	国語					

学習に関するアドバイス

本年度の調査を受けていないため、今回の学力の状況については、記載できません。今後、日々の授業を大切に、積極的に学習に取り組むことで、学力を伸ばすことができます。

数学

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル10」の中で伸びがありました。

学年	数学	今までの学力のレベル				
		レベル10	レベル9	レベル8	レベル7	レベル6
1	数学					
2	数学					
3	数学					
4	数学					
5	数学					
6	数学					
7	数学					
8	数学					
9	数学					
10	数学					

学習に関するアドバイス

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の学力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を思い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を明確にさせ考えを深めましょう。また、関数の学習は、式から点を求めたり、式をグラフに直したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では数値関数の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、正しく取り扱えるようにしましょう。今回のあなたの学力レベルを参考に、ホームページの「学習シート」を活用して、さらに自分の力を高めましょう。

英語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたは、「レベル8」の学力があります。

学年	英語	今までの学力のレベル				
		レベル10	レベル9	レベル8	レベル7	レベル6
1	英語					
2	英語					
3	英語					
4	英語					
5	英語					
6	英語					
7	英語					
8	英語					
9	英語					
10	英語					

学習に関するアドバイス

昨年度1年間の授業への取り組み方や学習習慣、生活習慣などについて、がんばったことや得意などを振り返り、整理してみましょう。それらを基盤とし、改善することで、学力が伸びることが期待できます。必要に応じて、学校の先生やご家族の方から相談してみるのもよいでしょう。読むことは、他の領域に比べて、よくできましたさらに読む力を伸ばすために、教科書の本文を繰り返し読んでみましょう。得意な英語の本を読んだりして、今までより高い文章を読むことに挑戦してみましょう。英文読解の問題に取り組むことも効果的です。また、聞くことの学習については、英語の音に慣れるために、授業では先生やALTの先生の声、友達の声や集中して聞くように意識したり、教科書の本文を先生や友達の発音をまねながら練習しましょう。家庭では、英語の音に慣れるように音読練習をしましょう。特に教科書の基本文については、くり返し練習しましょう。今回のあなたの学力レベルを参考に、ホームページの「学習シート」を活用して、さらに自分の力を高めましょう。

教科の領域別正答率

学年	国語	数学	英語	平均
1	4	4	—	60.0
2	3	10	—	60.0
3	3	18	—	60.0
4	22	30	73.3	60.0

あなたの正答率は青の棒グラフに表れています。

県全体の正答率分布

あなたの正答率は、県全体の正答率分布の [] に表れています。

教科の領域別正答率

学年	国語	数学	英語	平均
1	8	14	—	60.0
2	6	3	—	60.0
3	7	1	87.5	60.0
4	1	4	20.0	60.0
5	22	32	66.7	60.0

あなたの正答率は青の棒グラフに表れています。

県全体の正答率分布

あなたの正答率は、県全体の正答率分布の [] に表れています。

教科の領域別正答率

学年	国語	数学	英語	平均
1	3	10	100.0	75.0
2	12	23	62.1	100.0
3	10	7	60.0	78.6
4	25	40	60.8	67.5

あなたの正答率は青の棒グラフに表れています。

県全体の正答率分布

あなたの正答率は、県全体の正答率分布の [] に表れています。

絶対評価

相対評価

(3) 個人結果票の返却について

【Q7】

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A7】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。

学力の変化の状況により、教員や保護者から、一人一人の児童生徒に適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと考えています。学力が伸びた児童生徒に対しては、1年間の頑張りを認めたり、褒めたりすることで、自信を持たせてください。

また、学力が伸びていない児童生徒に対しては、教員と教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、児童生徒の取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

児童生徒の解答状況については、「教科の領域別正答率」の数値やレーダーチャートを参考にしてください。具体的問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」(類似問題)を掲載しているので、それらも活用してください。

(4) 結果帳票について

【Q8】

帳票の「26_学力の伸びの状況」の見方についてです。線の傾きは何を表していますか。

【A8】

この帳票では、同じ学齢の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（最大値に位置する児童生徒、75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒、最小値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。

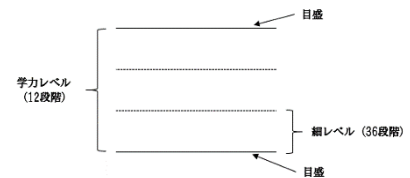
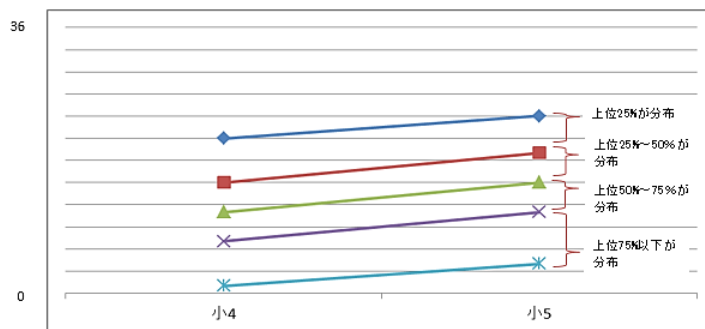
前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】

グラフの縦軸は、学力のレベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力のレベル（12段階）を表しています。

目盛りと目盛りの間は、それぞれ3段階に分かれています。



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

【活用の仕方 (例)】

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
上位層、中位層、下位層の、いずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。	上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。	上位層は伸びているが、中位層にほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。

線の傾きのパターンによって、それぞれの層に分布する児童生徒の状況が分かるので、前年度の指導効果を考える参考にしてください。

第2章

教科に関する調査結果の概要

平成27年度から29年度の3年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況を掲載しました。

また、それらについての分析と対応策についても、併せて記載しています。

活用方法

校内研修の資料や、調査結果を分析する際の参考として御活用いただけます。

「学力の伸び」の状況（平成 27～29 年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施も、今回で3回目となりました。今年度は、昨年度に続き、2度目の「学力の伸び」の状況が分かりました。これらの結果から見られる成果と課題をお伝えします。

分析と対応策

<分析>

- 昨年度と比較すると、「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合が、国語科（小4～中3）、算数・数学科（小4～中3）、英語（中2～中3）の11の学年間のうち、8つの学年間で増加している。
- 昨年度と比較し、「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合の学年間の差は縮小している。
- 昨年度、中学校1年生から中学校2年生にかけての「学力の伸び」が見られた生徒の割合が最も少なくなることから、学力面での「中1ギャップ」を指摘した。今年度、改善は見られたものの、依然として、その割合が最も少ないことには変わりはない。
- 小学校4年生から小学校5年生にかけての「学力の伸び」が見られた児童の割合は、他の学年と比べて最も多いことには変わりはないが、昨年度と比較して減少している。

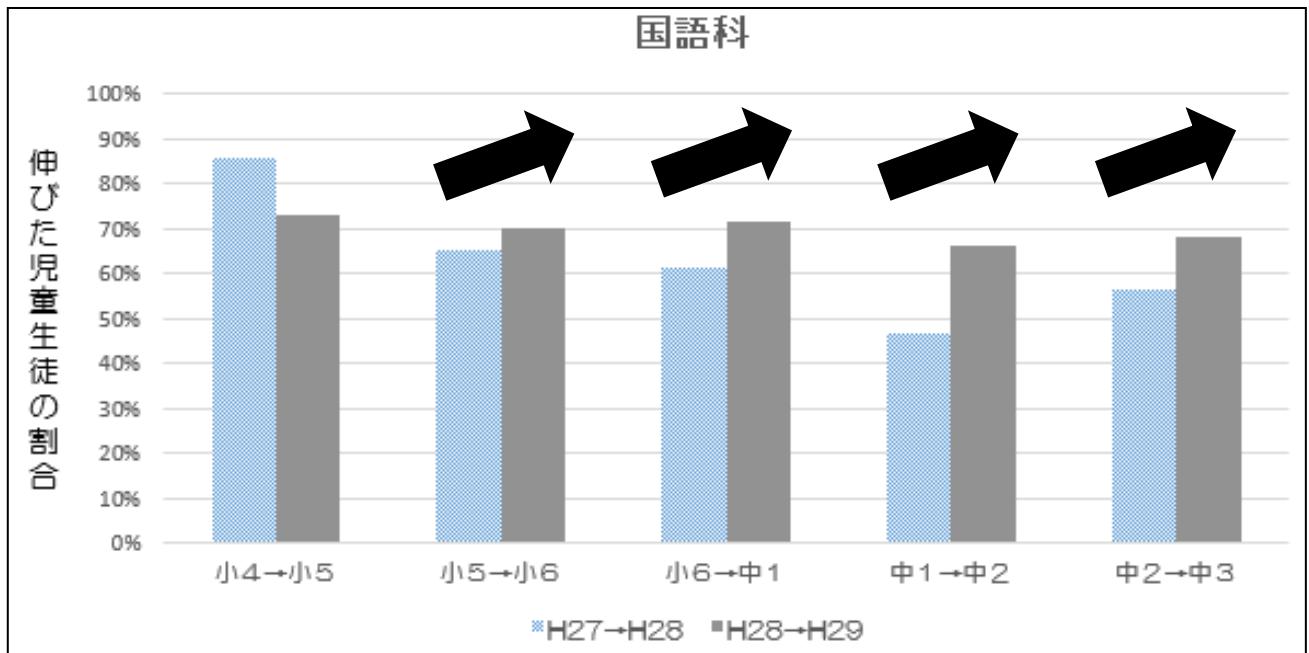
<対応策>

- ・ 本調査の結果等を確認し、「学力を伸ばした児童生徒の割合が大きい」、「学力の伸び率が高い」学年や学級を担当している教員から聞き取りを行うなど、効果的な取組を全校で共有し実践する。
- ・ 県学力・学習状況調査のデータ活用事業での分析結果を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を図る。
- ・ 中学校区内の小・中学校で合同研修会や授業研究会を実施し、指導法の違い等について共通理解を図るなど、学習面での小中連携を一層進める。

国語科

<国語科における県全体の状況>

- 「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合が、4つの学年で改善した。中でも、「小6→中1」「中1→中2」「中2→中3」の3つの学年間で10%以上増加した。
- 「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合が、最も多いのが「小4→小5」であること、最も少ないのが「中1→中2」であることは、昨年度と変わりはない。しかし、その差は7.1%であり、昨年度の38.8%から大きく縮小している。

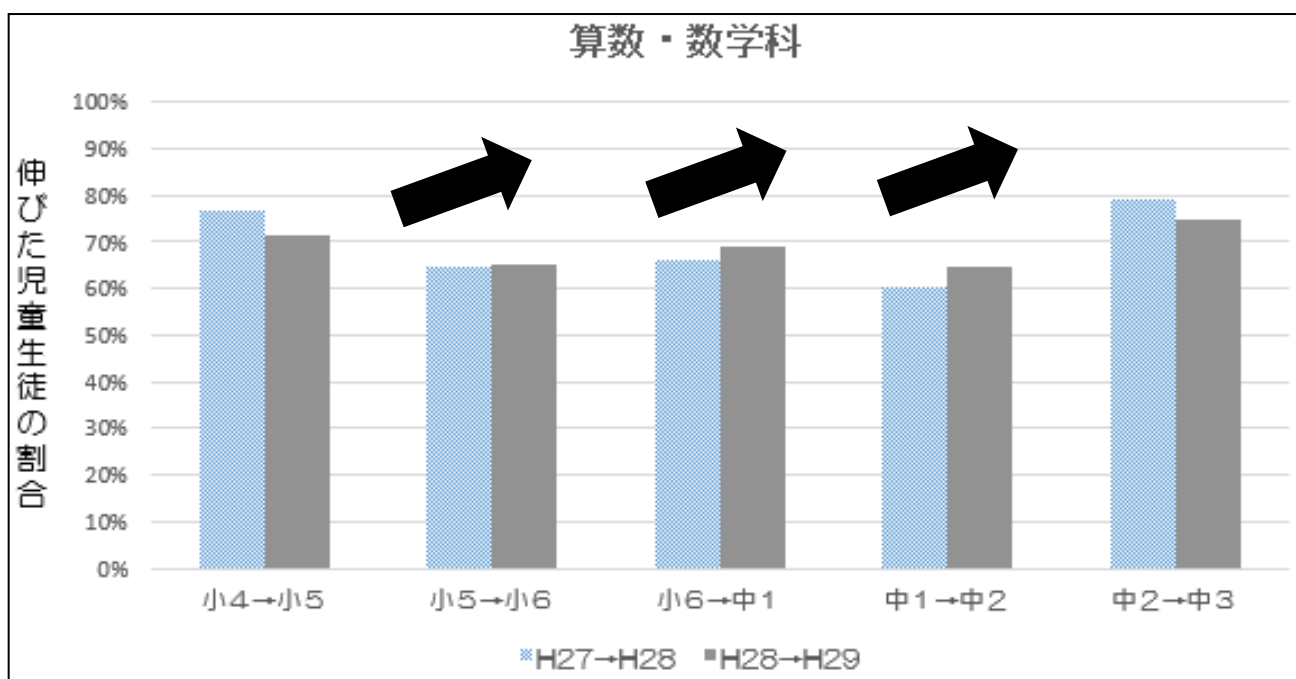


	小4→小5	小5→小6	小6→中1	中1→中2	中2→中3
H27→H28	85.4%	65.1%	61.2%	46.6%	56.6%
H28→H29	73.1%	70.2%	71.7%	66.0%	68.3%

算数・数学科

<算数・数学科における県全体の状況>

- 「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合が、「小6→中1」で3.1%、「中1→中2」で4.6%増加した。一方で、「小4→小5」で5.4%、「中2→中3」で4.3%減少している。全体としては、ほぼ横ばいである。
- 「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合が、最も多いのが「中2→中3」であること、最も少ないのが「中1→中2」であることは、昨年度と変わりはない。しかし、その差は9.9%であり、昨年度の18.8%より縮小している。

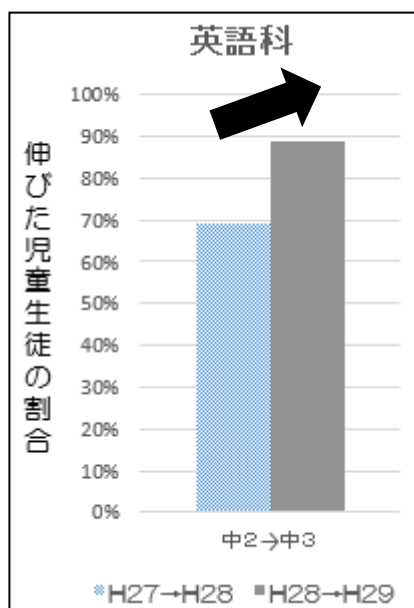


	小4→小5	小5→小6	小6→中1	中1→中2	中2→中3
H27→H28	76.8%	64.9%	66.1%	60.2%	79.0%
H28→H29	71.4%	65.2%	69.2%	64.8%	74.7%

英語科

<英語科における県全体の状況>

- 「学力の伸び」が見られた児童生徒の割合が、「中2→中3」で、19.7%増加している。



	中2→中3
H27→H28	69.1%
H28→H29	88.8%

※数値の見方

上記のグラフ及びデータは、昨年度から「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。